

2012年8月17日

「ステンレス鋼製車両群(東急5200系と7000系)」が  
日本機械学会「機械遺産」に認定されました

このたび、当社製車両で、当社横浜事業所で保存している「ステンレス鋼製車両群(東急5200系と7000系)」が、一般社団法人日本機械学会から「機械遺産第51号」に認定されました。8月7日の「機械の日」には、認定表彰が日本学士院(台東区上野公園)にて開催され、当社からは宮下直人代表取締役社長が出席しました。表彰式では機械遺産認定証と感謝状が授与され、代表者挨拶では宮下社長が「ステンレス電車のパイオニアとして世界に通用する日本の技術を提供していきたい」と今後の展望を述べました。

日本機械学会機械遺産とは、歴史に残る機械技術関連遺産を大切に保存し、文化的遺産として次世代に伝えることを目的に、一般社団法人日本機械学会が日本国内の機械技術面で歴史的意義のある「機械遺産」を認定するものです。

今年度機械遺産に認定され「機械遺産 第51号」となったうち東急5200系は、従来の鋼製車両に代わって無塗装によるメンテナンスフリー化を目指し、1958年に日本で初めて外板にステンレス鋼を採用した車両です。また東急7000系は、当社の前身である東急車輛製造が米バッド社から構体製造技術を導入し、独自技術で国内仕様に適合化して製造した日本初のオールステンレス車両です。日本機械学会では、「これらの車両は軽量化と車体の無塗装化を可能とし、現在の通勤車両を中心として広く普及しているステンレス車両の原型となった重要な遺産」としています。



「ステンレス鋼製車両群(東急5200系と7000系)」

写真左奥が東急5200系、右手前が東急7000系



機械遺産認定証  
(写真上)と  
感謝状(写真右)

